

議会だより



と
融けないうちに、^{いそ}急いで運ばなくっちゃ……京町保育園運動会（6月25日開催）

目 次

5月臨時議会 新たなメンバーでスタート……………	2
議会の仕組み……………	3
6月定例会 補正予算……………	4 - 5
町政を問う8人が登壇、新人3人が初のいっぱん質問……	6 - 13
行政効果を確認した……………	14
研修してきました……………	15
議会からのお知らせ……………	15
元気なスポーツ少年団、地域の話……………	16

新たな

メンバーでスタート!

5月臨時会

5月9日に初議会を開き、議長、副議長、及び各常任委員会等の構成が決まりました。



監査委員 下司義之



副議長 三國和江



議長 渡部孝樹



木本清登



○吉岡茂樹



◎木戸嘉則

産業建設常任委員会



海沼裕作



○了安正秋



◎今村昭一

総務文教常任委員会



大捕孝吉



下司義之



三國和江



井上次男

議会運営委員会

◎木本清登

○井上次男

三國和江

今村昭一

木戸嘉則

議会広報特別委員会

◎井上次男

○大捕孝吉

木本清登

下司義之

吉岡茂樹

了安正秋

胆振東部消防組合

海沼裕作・大捕孝吉

安平・厚真行政事務組合

木本清登・下司義之

胆振東部日高西部衛生組合

吉岡茂樹・了安正秋

民生委員推薦委員

今村昭一

都市計画審議会委員

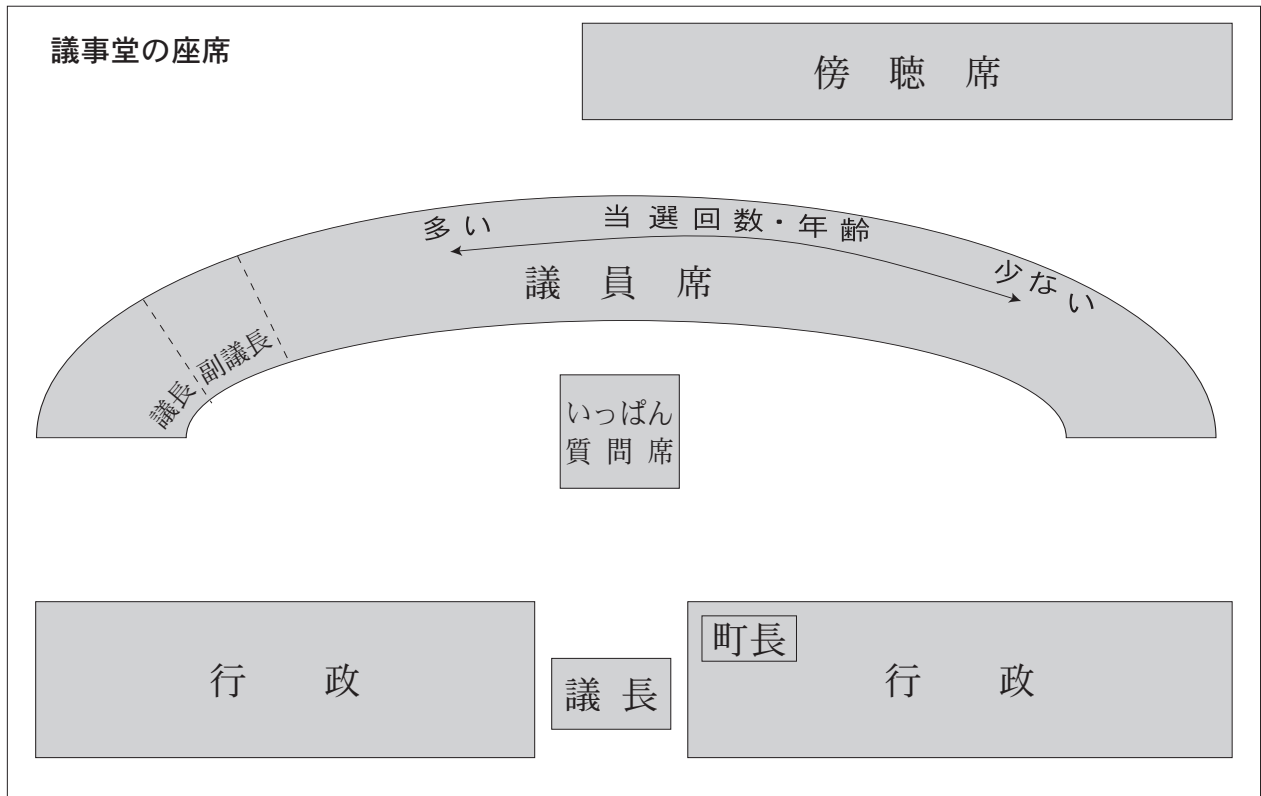
木戸嘉則・吉岡茂樹

土地開発公社理事

木本清登

(◎委員長 ○副委員長)

議会の仕組み（その1） 座席・質問



反問権

反問権は町長ほか町の職員が、議長の許可により議員の質問に対して論点・争点を明確にするため、反問することができるものですが、厚真町では採用していません。

質問の方法

厚真町議会は、質問項目を一つずつ審議する一問一答方式を採用しています。

質問者の持ち時間は30分です。この時間には答弁の時間が含まれないため、答弁が長くなっても質問時間に影響がありません。執行部が意図的に答弁時間を長くし、質問者の持ち時間を少なくすることができなくなっています。

一問一答方式により質問者は納得がゆくまで一つの案件について質問ができるようになりました。

4,387万円を可決（賛成9 反対1）

宮の森保育園（上厚真）

保育環境が充実されます。



宮の森保育園の臨時保育士の雇用賃金139万円、一歳児用テーブル、イス等の購入費15万円を承認しました。

今年4月から正職員の保育士が設置されるなど、宮の森保育園は、保育環境の改善、充実が図られています。

保育環境がさらに充実される
宮の森保育園（上厚真）



町道を認定しました。



高田真知子氏

人権擁護委員を全会一致で承認。

鳥獣害防止対策事業の増額を承認

鹿侵入防止柵設置費など、1746万円の増額補正を承認しました。

この増額補正は、国の補助金が減額になったことにより、22年度と比べて受益者の負担が増えるため、町補助金を増額し、受益者負担を昨年並みの22・5％に調整します。

農産物販売拡大・PR事業339万円を承認

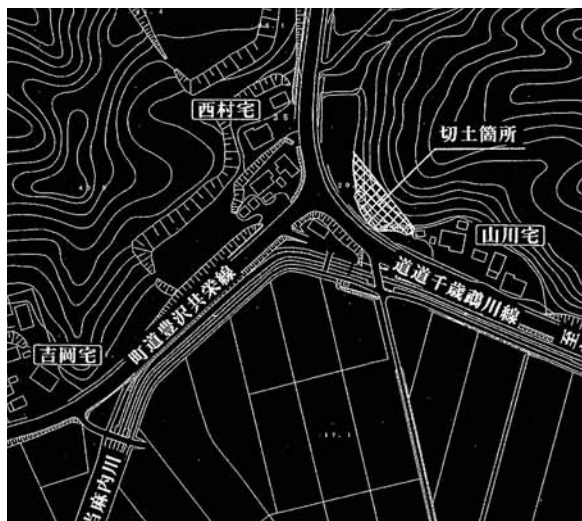
JAとまこまい広域圏の各支所で生産、加工された農畜産物を集荷し、道の駅「ウトナイ湖」へ運搬、店頭陳列を行うための人件費、PR費、消耗品費や、近隣の道の駅の利用者数、販売状況を調査研究することを目的としています。



厚真からむかわへ向かう



むかわから厚真へ向かう



定例会説明資料図面



町道豊沢共栄線側から切土箇所を確認、
切土手前は道道千歳鷓川線

国民健康保険料の上限を50万円から51万円に引き上げることを承認。

介護保険料の上限を10万円から12万円に引き上げることを承認。

反対討論

海沼裕作 議員

町道豊沢共栄線交差点交通安全対策工事については、土木費の道路維持費ではなく、交通安全対策費で予算計上すべきものであると考えるので、反対する。

賛成討論

下司義之 議員

町道豊沢共栄線の交差点改良工事については、地元自治体から長年に渡り要望の出ている事業である。
小、中学生などは道路を横断する時に非常に危険な目に合っている。また、農業用トラクターなどについても、進行スピードが遅いということもあり、方向転換し始めてから対向車を発見しても渡りきれないなどの問題もある。
地元においても沿道の木を切るなど独自の対策は講じてきているが、道において改良工事が進まなかったことに対して、町が英断をして改良に踏み切ったということに対して賛同し、賛成する。

ん 質 問



木戸嘉則 議員

津波対策は十分か

答 ソフト的な対策を充実させる



緊急通報に重要な役目を果たした
監視カメラ付き拡声器

津波対策は十分か

問 津波対策に対しての考えをお伺いしたい。

町長 津波は規模をいろいろ想定するのが難しいということからかんがみると、自らの命は自ら守るというソフト面の充実が大切だと考えている。ハード面の整備に関しては、浜厚真海岸線が6キロということもあり、この部分を防潮堤や防波堤でハード的に対策をこらうじめるのは非常に難しいのではないかと考えている。

そんな中で、今回、カメラ付き拡声器などは非常に効果があったと検証している。

避難場所が変更になった理由は

問 避難場所が厚南会館から上厚真小学校へ変更になり、住民、児童、小学校の先生が大変混乱した。今後、避難場所をどのように考えていくのか。

町長 津波注意報が警報に変わり、想定される津波の高さも高くなったため、避難場所を厚南会館から小学校へ変更した。状況により避難場所を臨機応変に変えていくことが必要だと思っている。

問 災害に備えて資機材や食料、生活支援物資の備蓄が必要ではないか。冬期の避難対策物資を備えることも必要であると思うが。

町長 今回避難対象になった方が500人を超え、その分ぐらいは備蓄する必要があると思う。

冬期の暖房については、短期的避難にも欠かせないものなので、早急に用意したいと思う。



厚南会館は今回避難場所にならなかった。

生活支援物資備蓄が必要では

問 災害に備えて資機材や食料、生活支援物資の備蓄が必要ではないか。冬期の避難対策物資を備えることも必要であると思うが。

町長 今回避難対象になった方が500人を超え、その分ぐらいは備蓄する必要があると思う。

冬期の暖房については、短期的避難にも欠かせないものなので、早急に用意したいと思う。



町政を問う

了安正秋 議員

いっぱ

グリーンツーリズムの

方向性は

答 既存にあるものを
充実し、アピールする

地域メニューの内容は

問 地域メニュー開発事業補助金の具体的内容は。
町長 食によるまちおこしを目指して、厚真調理師会が行う地域の食材を生かした研究開発のための食材費と研修旅費である。

22年度には、エゾ鹿カリー風味ジンギスカンとジャガムースが開発された。
問 厚真ブランドの構想は。
町長 一次産品のブランド化にも力を入れて取り

組んでいる。まず、作付面積日本一のアスパラガスの振ブランドを創造することも必要ではないかと思う。

グリーンツーリズムの方向性
問 グリーンツーリズム、都市農村交流の方向性について伺います。
町長 町内に既にあるものを体系化してアピールすることが必要だと思う。中核施設としてのこぶしの湯の機能アップもさせるべきであると思う。時間はかかるがそういったコンテンツを充実させる努力をしたい。



厚真ブランドとして期待されるハスカップ

がん検診受診率の向上対策は

答 受診率を上げるよう
努力する

問 がん検診受診率を上げる方法は。
町長 がん検診受診率は近年変わっていない。肺がん受診については全道でも5番目に入っている。非常に高い受診率で、胃がん、大腸がんについても高い受診率である。
子宮がん、乳がんについては受診率が低いので、健康教育を充実し、診察日数について検診機関とも相談したいと思う。



検診率向上には意識の向上が課題
(写真は住民健診の様子)

ん 質 問



木本清登 議員

地域に応じた防災教育とは

答 防災、津波ハザードマップ
を活用した対応をする

防災教育は

ある。

日常的な備え、災害時

問 子供や保護者に対し
てどんな指導や助言が必
要なのか、地域に応じた
防災教育とは。 育成するということが、
における危険の認識、そ
れを回避する態度、その
ような行動などの知識を
防災教育上求められてい

ては、生命、財産など生
活に密着した安全教育で
る役割である。



防災教育に活用する防災マップ等

専任センター長を設置すべきでは

答 厳しい規制により
適正に管理している



給食センターのセンター長は、
教育委員会生涯学習課長が兼務しており、
センターに常勤していない。

給食センターの管理は

問 給食センターに専任
のセンター長を設置する
必要があるのではないか。
教育長 給食センターの

運営全般については学校
給食衛生管理規則により
適正に管理している。

日常的な管理全般は学
校栄養教諭が行っていま
すが、給食センターには
条例上センター長の設置
が義務付けられています
ので、生涯学習課長が兼
務している。

こんな質問もしました。

宮坂町政3年間の総括は
答 まちづくりを推進す
るために大きな7つの柱
を建てた。

未来のために行う行政
改革、移住定住政策の推
進、社会福祉の充実、農
林水産資源を生かした地
域への推進、教育環境の
充実、安心安全な住環境
の整備、長期計画に沿っ
た財政運営である。

そういったものに目標
を定めて、多くの項目を
掲載して実行に移しつづ
める。

その中でも、特に人材
を育ててとして人材を残す
ということを政策の柱と
してまいりました。

今後とも一次産業と移住
定住を進めるまちづくり
をしていきたいと思う。



大捕孝吉 議員

町政を問う

いっ っ ぱ

道営ほ場整備事業の受益者負担5%を最後まで継続できるか

答 平成27年度までは継続できる

個人負担に対する支援は

問 町の7・5%負担、

受益者の5%負担を最後まで継続できるか。

町長 道でパワーアップ事業第4期対策を実施するということになったので、平成27年度までは現在の枠組みで継続できる。
工事の遅れに対する取り組みは

問 震災関係による予算の減額についてどのような考えているか。

町長 震災関係で予算が5%減額となっているので、執行に当たって実施主体がいろいろ苦労している状況にある。

町としては、できる限り関係機関と連携を深めて、政府与党、関係機関に対して予算の増額を要望していく考えである。

転作奨励金に対する今後の対応は

問 平成22年度の道営ほ場整備事業に伴う転作奨励金は、最終的に3万1千円で決着が着いた。

平成23年度は、国からの助成金を4千円とする、昨年支給された3万1千円との差額をどのようにするか、町の考え方はつきりすると、安心して緑肥にし、ベターな

夏施行にすることができ
るが。

町長 道、国が緑肥についても産地資金で賄うことを認めることになり、3万8千円程度の支援がされる見込みである。

最終的に対応を決めるのは町の農業再生協議会であるが、道営ほ場整備推進のためには、緑肥に対する助成を今後とも継続していけるのではないかと思う。



震災により予算が減額されている道営ほ場整備事業

ん 質 問



今村昭一 議員

脱原発のためにも波力、 風力発電を北電に要請しては

答 機会があれば

意見を申し上げたい

波力・風力発電

問 福島県で非常に大変なことが現実になった。脱原発は子々孫々に対する責任である。

自然エネルギーを利用した発電へ舵を切るためにも地方から姿勢を示す必要があると思う。波力や風力の利用を北海道電力へ要請しては、



風力発電風車 (Wikipedia より)

北海道電力へ依存する町長 原子力に依存的な流れは、今回の事故で大きく舵が切られそうに感じている。自然エネルギーの活用技術力の向上も含めてそんな時代かなと思う。北海道電力において、今後の電源構成について見直されると思うので、機会があれば自然エネルギーの発電源についても拡大できないか、端的に意見を申し上げてみたいと思っています。

町有林の現状と今後の展望

問 町有林事業に対する一般財源の状況は。

町長 平成22年度はコストより収入が多かった。平成23年度は、591万円を投入する予定である。平成24年度から45年度

町有林の現状と将来見込みは

答

中国などアジア圏の経済が上向きになっているため、カラマツ市況は良くなってきている



林業界のニューフェイス、クリーンラーチ
(北海道立総合研究機構 林業試験場ホームページより)

まで22年間のトータルでは、立木処分収入の方が多く4435万円ほどのプラスとなる見込みであるが、木材市況では大きく変動する可能性がある。町長 カラマツの市況は良くなってきたか。町長 近年のカラマツ市況は、70万円から80万円となっている。これは、中国などアジア圏の経済が上向き、カラマツの価格、使途が市場で見直された結果と思う。町長 数年前に出されたクリーンラーチは、町長 カラマツとグイマツを掛け合わせたF1の一種から出たもので、急速にはその生産量の拡大が期待できない状況である。町長 昨年の生産計画は年間3万2千本しかなかった。町長 苗木の生産の仕方と伐期は。町長 苗木の生産は、挿し木で行う。成長は早いということであるが、伐期については35年前後と予想されている。



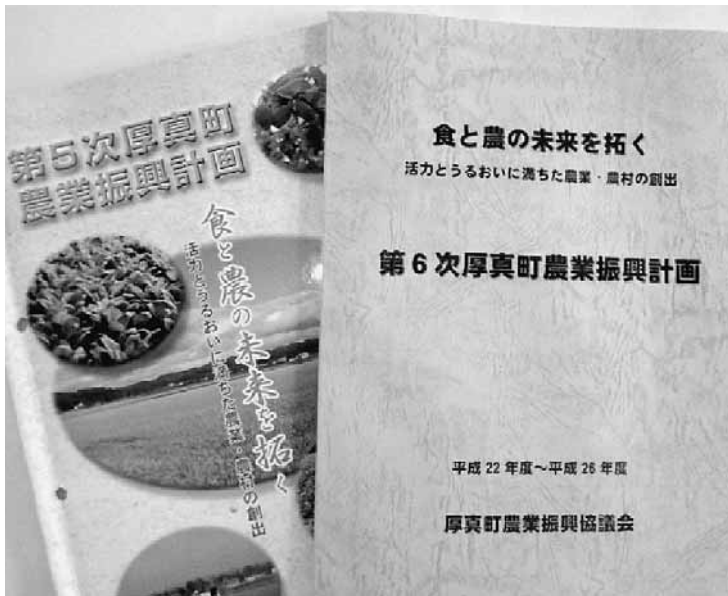
吉岡茂樹 議員

町政を問う

いっ っ ぱ

研修農場構想をどのように考えているか

答 23年度にアウトラインづくりを進めたい



第5次・第6次厚真町農業振興計画

農業振興策は

問 第6次厚真町農業振興計画の平成22年度における進捗状況は。

町長 担い手基金を創設し、財政的な手当てをする。農業研修生は個人5団体1の登録をしている。道の新規参入者の就農促進支援事業の活用、認

定就農者制度は5件が継続して活用している。

問 平成9年度からの新規参入は合計7人で、6人が定住している。新・農業フェアへの出席による実績は1件である。

町長 第5次計画の達成率は、産業経済課長 数字で表すのは大変難しい。

問 青年農業者や新規就農者に対する研修について今年度の取り組み、及び、農業研修受け入れ登録農家戸数と受入農家に対する支援は。

町長 研修については、農協の計画に協力する。登録農家は5人1団体で、受入農家に対してはコスト分の費用支給がある。

状況と今後の方策は。
町長 22年度は全国の先進地を視察した。

23年度については、研修農場構想のアウトラインづくりを進めたい。
また、地域おこし協力隊農業支援員の2人の支援を受けた。この農業研修の状況も踏まえて研修農場を具体化したい。

問 次世代を担う新たなリーダーの育成で、地域のモデル経営体の登録農家を増やす必要があるのでは。
町長 受入農家が増えることは非常に好ましい。
問 北海道農業者、指導農業者の登録を推進する必要があるのでは。
町長 指導農業者、農業者が増えるよう制度設計し、JAを含めた農業団体とも協議をしたいと思う。

問 研修農場構想の進捗

用語説明
*1「経営体」
質問中に使用されている経営体は農業経営体、農業経営者、農業者など農業を経営する主体のこと。

ん 質 問



海沼裕作 議員

厚南会館は避難場所として適さなかったか

答 より高い上厚真小学校へ誘導した



厚南会館は

問 津波の高さが6メートルという想定で、厚南会館は避難場所として適さなかったか。

町長 厚南会館の標高が8メートルということで、より高い標高19メートルの上厚真小学校へ避難指示をした。

避難指示対象者が厚南

会館の収容人員を上回っていたということも変更した理由である。

残っている人が居たが

問 避難指示が出された区域に残っている人が居たが、どのように考えるか。

町長 100パーセントに至らなかったことに対しては今後の反省材料に

しなければならぬ。

洪水や地震の時にどう行動するかを地域の住民や災害関係機関が行動指針を明らかにする必要がある。

係員の指示は

問 係員は今回どのような指示をしたか。

町長 今回は防災無線で指示をした。

橋を渡るリスクは

問 避難場所を変えた時に橋を渡るというのは、危険度を増すことにならないか。

町長 あくまでもその時の災害の状況を見て臨機応変に対応するのが行政の役目である。

サイレンの活用は

問 サイレンを使って避難を呼びかけることはできなかったか。

町長 浜厚真海岸の拡声

機は活用したが、上厚真のサイレンは使用しなかった。理由はサイレンの意味を住民に周知していないためである。

今後は関係機関と十分協議し、そのようなソフト的な対策も講ずる。

P D C A は

問 最後に、P D C A ²をされたか。

町長 なるべく皆さんの記憶が薄れないうちに、関係機関や自治会に集まっていたいただき、建設的な反省会を行う。

用語説明

* 2 PDCA サイクル(ピーディーシーイー)
Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善すること。



下司義之 議員

町政を問う

いっぱ

宮の森保育園の保育時間適正化と休園日の設定をどのように考えているか

答 保育時間の延長と休園日の適正化に取り組む



閉園時刻が午後5時

宮の森保育園の適正化を問 宮の森保育園は、へき地保育所条例の対象になっていない保育園であるが、町条例に不適な状況になりつつある。

保育時間の適正化と、休園日の設定について、さらに、京町保育園との標準化は。

町長 宮の森保育園は今後常設の保育園に昇格させ、京町保育園と同じような保育環境にしたい。保育時間、休園日については8月から職員を増員するので、現場と前向きに相談したい。

役場上厚真支所業務の安定化が必要では

問 上厚真支所は、正職員1人、臨時職員1人だが、苦小牧圏への通勤圏としての上厚真地区の重要性、さらに、防災という観点から上厚真支所の職員を配置すべきと思うが。

町長 上厚真支所に職員を増やすのは難しい。災害時などは本所から職員を派遣することで十分対応できると考えている。



管理体制の充実を求めたい支所

観光農園の振興策は

問 観光農園、何とか狩りというものの儲けどころのノウハウを町内の方はなかなか持つていないと思うので、そういった支援も必要ではないか。

町長 観光農園はどうやって運営することによって利益が出るか、技術的な指導も含めて研修会を

観光農園に対する町の支援策は

答 ソフトとハードの支援計画を

早急につくりたい

行うなど、ソフト的な支援とハード的な支援について、早急にそのスキームを作りたいと思う。

用語説明
*3 スキーム
「枠組みを伴った計画」や「計画を伴う枠組み」のこと
で「組織立て」「継続的に実行されることが、単純に計画を表すプランや、単純に枠組みを表すフレームワークと異なる。



農業者それぞれが工夫している観光農園の案内看板

行政効果を確認した。

7月7日(水) 午前10:30 庁舎出発
午後4:45 帰庁



中央小学校に設置したソーラーパネル



稲の生育状況は昨年並み
説明 普及センター 植村さん



分譲が始まったフォーラムビレッジ



放課後の児童活動に活用する予定の富野小学校



100年記念公園にある水車小屋は補修が必要



緑化環境整備ということだが。



かえで団地6号棟(上厚真)の完成確認をした



有効利用が求められる軽舞小学校跡地を確認



共和地区で畑作物生育状況の説明を受ける。
説明 普及センター 秋元さん



被災者向けに活用する、上厚真C棟団地



防災の切り札、浜厚真に設置された拡声器とライブカメラ

研修会に参加しました

大捕孝吉 議員

七月四日、札幌コンベンションセンターに全道から一六〇〇人余りの町村議会議員が集まり、二人の方の講演を聴きました。

最初は、日曜朝の時事放談の進行役、東京大学先端科学技術研究センターの御厨貴氏で、演題は「今後の政党政治の行方」でしたが、いきなり演題の「行方」を「行方不明」と言い換えたのには驚きました。私たちが日頃新聞やテレビで見聞きしている今の政権では納得できる気がしません。

講演の中では、東日本大震災を軸に現政権の復興のまずさを上げ、委員会、審議会と言った組織



を沢山作り会議はするが結論や方向性が出てこない、政権政党に求められるスピード、決断、実行が無い、国が変わるためには政権の枠組みが変わることと述べていました。次に、経済評論家の内橋克人氏が、「今後の日本経済展望」の演題で、東日本大震災後の復興につ

いては、個人や市町村が幾ら頑張っても、国家のプロジェクトなしで復興はあり得ないと。また、日本のグローバル企業により、日本経済はローカル経済、大企業は海外に生産拠点を移転し、利益の全てを海外銀行に入れ日本に来ないと。後半では食料輸入問題に触れ、今世界は食糧危機になりつつあり、食糧輸入国日本では、自給率を上げないと大変な事になるとも述べ、今の政権の無策、無方針を批判、戦争、飢餓、災害は国の責任と一括し、住民の安全安心を守るの身近な議員であると強調されていました。

歯に物着せぬ言い方で評価は別として、機会があれば、また講演を聞きたいと思いました。

議会の会議録を

「ことば」や「発言者」で検索できるようになりました。

現在、平成19年からの定例会会議録が検索・閲覧できます。

議会ホームページ (<http://www.town.atsuma.lg.jp/gikai/>) のトップページ、「会議録検索」からアクセスしてください。 問い合わせ先 議会事務局 電話 27 - 2485



厚真町議会 会議録検索システム

Atsuma Town Assembly Minutes Search System

トップページ ことばで探す 発言者で探す 複合検索 全会議から選ぶ ヘルプ



会議録検索システムは、議会本会議録を検索・閲覧できるシステムです。平成21年からの会議録が対象になります。

詳しく検索する



▶ **ことばでさがす**
ご指定になる単語にあわせて会議録を検索いたします



▶ **発言者でさがす**
議長名・質問者名・答弁者を指定します。また、対応発言までも表示可能です



▶ **複合検索をする**
色々な条件で会議録を検索することができます。



▶ **全ての会議を見る**
全年度・全回からの閲覧はこちらをクリック

かんたん検索

簡単検索開始

発言集作成

※当システムのご利用には、Internet Explorer 6.0 / Netscape 7.1 / Firefox 1.0以上のご使用をお求め致します。

※当システムでは、人名や地名などJIS第2水準にない文字については、JIS第2水準に置き換えて表記しており、会議録原本と一部異なる場合がありますので、御了承ください。

柔道スポーツ少年団

指導者 小関逸弥さん



上厚真連合大運動会が開催されました

地域の話題①

6月11日、土曜日、上厚真小学校グラウンドで、軽舞小学校と富野小学校が閉校したことに伴い、児童数が多くなった上厚真小学校初めての運動会が開催されました。



宮の森保育園園長 佐藤秋夫さん

当日はお天気にも恵まれ、児童79人に宮の森保育園の園児42人が華を添え、児童会のスローガン「全力、協力、最後まで。」が、全員に周知され、他人への思いやり、協議への協力、最後までやり抜

くことがこの運動会で児童に養われました。今後子供たちが立派に成長できる学校、保育園を地域で支えてゆきたいと思っています。



議会だよりは議員が作ってます

議会広報特別委員会

- 委員長 井上次男
- 副委員長 大捕孝吉
- 委員 木本清登
- 委員 吉岡茂樹
- 委員 了安正秋
- 編集長 下司義之